

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	33	病態治療学Ⅰ
1年	43	基礎看護技術Ⅲ
1年	44	基礎看護技術Ⅳ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb02					
			●								
科目名	病態治療学Ⅰ					単位 認定者	田林 暁一		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位				
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
							授業回数	15 回			
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。										
到達目標	1. 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。 2. 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーション、理学療法、作業療法の概要を説明できる。 3. 造血機能障害（血液・造血器の疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 4. 免疫機能障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。										
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適応できるよう教科書を読んで予習・復習をしてください。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	臨床検査①：検体検査①の実際（臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査、微生物学的検査）					臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）				千葉 美紀子	
2	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際（臨床検査の基礎、輸血検査、病理学的検査、生体機能検査）					臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）				千葉 美紀子	
3	放射線医学①：放射線診断（X線撮影、CT、MRI）					講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（60分程度）				小山 周樹	
4	放射線医学②：核医学診断・放射線治療					講義資料をUNIPAで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（60分程度）				小山 周樹	
5	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等					手術療法について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）				柴田 近	
6	手術療法：麻酔					麻酔について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）				長屋 慶	
7	血液成分、血液の流動性					血液成分や血液の流動性について、教科書の該当するページを予習・復習してください（30分程度）				中川 國利	
8	出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍					出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍について、教科書の該当するページを予習・復習してください（30分程度）				中川 國利	
9	浮腫					第9回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習				田林 暁一	
10	免疫の仕組みと花粉症、食物アレルギー					第10回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習				田林 暁一	
11	自己免疫疾患、川崎病と老化					第11回授業内容の30分間の予習、および前回授業の30分間の復習				田林 暁一	
12	リハビリテーション総論					リハビリテーションについて調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
13	リハビリテーション：理学療法					理学療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
14	リハビリテーション：作業療法					作業療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）				大橋 孝子	
15	リハビリテーション：言語療法					言語聴覚士の業務内容について、予習すること。（60分程度）				渡邊 弘人	
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』池上徹他編、医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』奈良信雄他編、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器』飯野京子他著、医学書院										
参考文献											
備考	第9～11回は講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	二口 尚美		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（技術）	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	フィジカルイグザミネーションには五感を活用する。人体の構造と機能の知識をもとに正確・安全・安楽に実施できる技術を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	ヘルスアセスメント				【事前】「事前課題」を作成する。教科書①「第2部」を読む（30分）				二口 尚美	
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む（30分）				二口 尚美	
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
7	計測の実際：グループワーク				【事前】教科書②「身体計測」を読む（30分）					
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖	
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖	
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク				【事前】教科書②「頭頸部のアセスメント」、「腹部のアセスメント」、「乳房と腋窩のアセスメント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスメント」、「脳・神経系のアセスメント」、「筋・骨格系のアセスメント」、を読む（60分）、動画視聴（10分）				佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子	
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美	
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美	
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				【事前】：教科書②「呼吸器系のアセスメント」、「循環器系アセスメント」を読む（30分）、動画視聴（10分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
14	心理・社会状態のアセスメント				【事前】教科書①「第2部」、教科書②「フィジカルアセスメント総論」を読む（30分）				佐藤 清湖	
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				【事前】第1回から第14回までの教科書①②、参考書および動画視聴内容を復習する（30分）				二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖	
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹著、メジカルフレンド社									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、浜野圭 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 13, 15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート（10%）、確認テスト（10%）、学習カード（10%）で評価し、授業の中でフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術（採血・検体検査）を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置（一時的導尿・持続的導尿）」					教科書② 第2部6章を読む（1時間）			竹田 理恵	
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置（浣腸・摘便・ストーマケア）」								竹田 理恵	
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」：グループワーク					講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）			竹田 理恵 二口 尚美	
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」：グループワーク								佐藤 由記子 佐藤 清湖	
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、電法、末梢循環促進ケア」					教科書② 第3部11章を読む（30分）			佐藤 清湖	
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」					教科書② 第3部10章を読む（30分）			佐藤 清湖	
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク					講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）			佐藤 清湖 二口 尚美	
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」								佐藤 由記子	
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」					教科書② 第4部12章を読む（1時間）			佐藤 由記子	
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク								佐藤 由記子 二口 尚美	
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク					教科書② 第4部13章を読む（1時間）			竹田 理恵 佐藤 清湖	
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」								佐藤 由記子	
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」					教科書② 第4部13章を読む（30分）			佐藤 由記子	
14	与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」								佐藤 清湖	

回	授業計画	準備学修	担当
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク		
17	与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
19	筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
20	与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖
22	点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	二口 尚美
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」	教科書② 第4部14章を読む（30分）	二口 尚美
25	静脈血採血の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
26	静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク		
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」	教科書② 第4部14章を読む（1時間）	二口 尚美
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		二口 尚美
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（1時間）	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		
教科書	①『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースিং・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、江口美知子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、確認テスト（15%）、演習レポート課題（25%）で評価し、次回授業時等にフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--